

図、表、写真等



図 1. (左) 草地に特化した 4 種の対象草本植物。(a) センブリ、(b) カワラナデシコ、(c) オミナエシ、(d) ワレモコウ。(右) 野焼きによって維持されている代表的な草地 (奈良県・曽爾高原)。

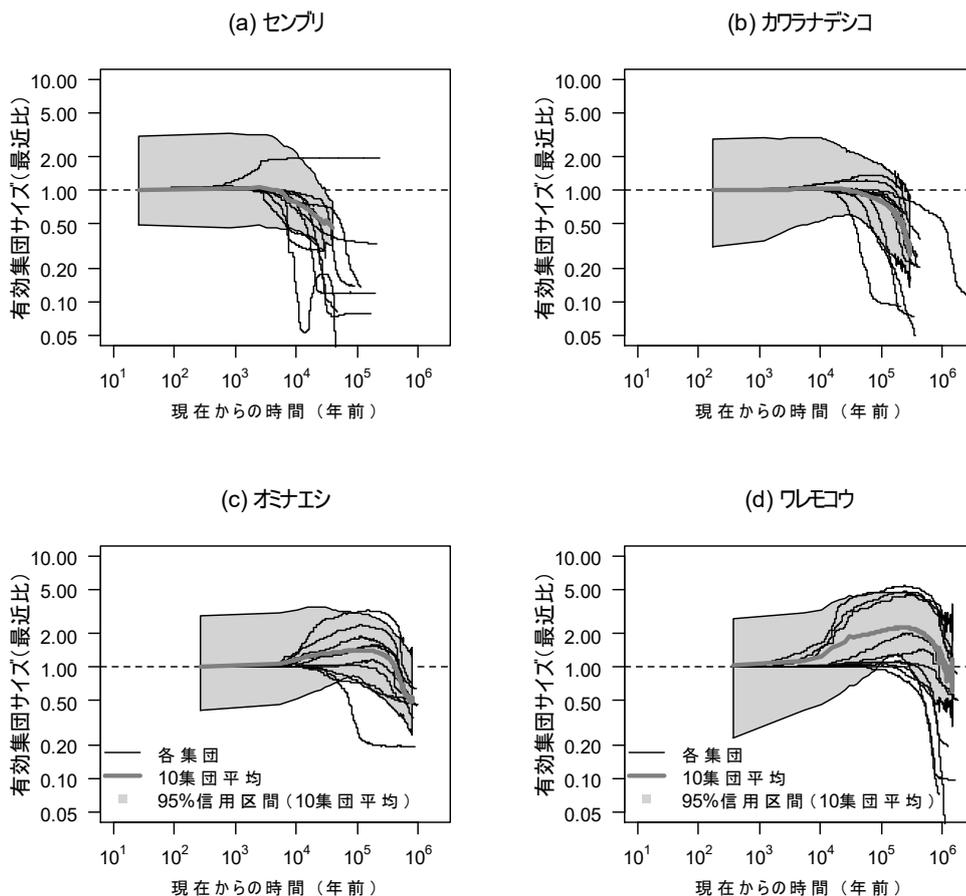


図 2. 遺伝子解析によって推測された草地性植物 4 種の集団サイズの変遷。それぞれの種について 10 カ所の草地で調査を行ない、集団サイズの変化を推測しました。横軸は現在からの時間(右から左にかけて、過去から現在の集団サイズの変化を示します)、縦軸は数百年前の集団サイズに対する、過去の集団サイズの比率を示します。10 カ所の平均的な変遷を灰色の太線で、その 95%信用区間を灰色の区域で示しています。センブリ以外で、集団サイズは 100 万年前から 10 万年前にかけて増加し、その後カワラナ

デシコの集団サイズは変化せず、オミナエシとワレモコウの集団サイズは1万年前にかけて減少しています。センブリは10万年前から1万年前にかけて増加してその後集団サイズは維持されていると推定されました。灰色の区域で示した10集団の95%信用区間から、過去10万年間、4種の集団サイズは0.5~2.0倍の範囲で維持されてきたことが分かります。